

千葉県少年野球大会特別規則

大会競技規則

1. 最新年度「公認野球規則」並びに全日本軟式野球連盟が発行する最新年度「競技者必携」及び「大会特別規則」を適用する。
2. 本大会規則は千葉県少年野球大会（高学年(5・6年)大会、低学年(4年以下)大会、女子大会及び地域対抗6年生選抜大会)に適用する。
以下、高学年(5・6年)大会を「高学年大会」、低学年(4年以下)大会を「低学年大会」、地域対抗6年生選抜大会を「6年生選抜大会」と略す。

大会特別規則

(出場資格及びチーム構成)

1. 大会出場資格は、特定非営利活動法人千葉県少年野球連盟（以下「法人」という）の構成会員（以下「チーム」という）であり、試合日程が学校行事等に関わらない事。地域に於いて最終日まで参加できるチームを選出する事。
2. 大会出場登録でのチーム構成は、成人者(20歳以上)による代表者、監督、コーチ(2名)、スコアラー、介護員(保護者2名以内、連盟ビブス着用)と選手(詳細は下記3項による)とする。
ベンチ入り指導者(監督・コーチ)は、認定指導者有資格者及びスポーツハラスメント講習受講修了者とする。
認定証については、試合前のトス時(メンバー確認)に認定証の提出を求め確認する。
ベースコーチは、全ての大会を通じて選手に限ることとする。
3. 出場チームは、この法人の定款、大会規則、大会特別規則を遵守すること。
選手構成は下記の通りとする。

高学年大会	低学年大会	女子大会	6年生選抜大会
9名以上20名以内	9名以上20名以内	9名以上25名以内	9名以上20名以内

その他、各大会における構成上の注意事項は下記の通り。

① 高学年大会

4年生以下(1・2年生含む)を含んでも良い。

② 高学年・低学年大会

参加する1チームの部員数が8名以下(*1)のチーム同士の場合は連合を認める。

※連合は選手数が少ないチーム同士数チームでも可能とする。連合チームの中の1チームの部員数が9名(*1)を超えても連合していた他のチームの選手数が満たない場合はそのチームの選手登録は救済処置として認める。ただし地域理事の承認をえることとする。

*1: 部員数のカウントは各大会により次の通り。

6年生大会 : 6・5・4・3年生の数を以てカウント

5年生大会 : 5・4・3年生の数を以てカウント

低学年大会 : 4・3年生の数を以てカウント

③ 女子大会

選手は小学生女子とし、選手数が少ない地域の連合は認める。

④ 6年生選抜大会

選抜する選手は、地域に所属のチーム内から広く選抜するものとし、4チーム以内からの選抜は認めないものとする。（5チーム以上）

ただし、5チーム未満の場合で事前の理事会承認を得た場合はこの限りでない。

4. 前項に違反した場合は、没収試合とし相手チームに勝利を与え、後日協議し処分を言い渡す。

(服装・用具)

1. 同一チームの監督・コーチ・選手は、統一されたユニホームまたは、所属チームのユニホーム・帽子・ストッキング(アンダーソックス着用)・アンダーシャツを着用すること。代表者・スコアラー・介護員の服装は、スポーツが出来る服装(ユニホーム、半ズボン禁止)とし、帽子(所属チームの物)を着帽し、靴は運動靴またはアップシューズとする。
※ストッキングはアンダーソックス着用が分かること。
2. 背番号は、監督30番、コーチ28番・29番、主将10番、選手は0番～99番とする。
3. スパイクシューズの色は自由とし、全員同色でなくても良い。(金属歯のスパイクは禁止)
4. ヘルメットは、「J S B B」公認マーク入りで両側にイヤラップの付いたものを最低8個用意し、打者・次打者・走者・ベースコーチ・ボールボーイは必ず着帽すること。
5. 捕手(控え捕手も含む)は、マスク(SGマーク付き及びスロートガード付(一体化も可))・レガース・プロテクター・ヘルメット及びファールカップ(女子選手除く)を着用する。
6. 投手の守備を除き、選手(打者・守備)の手袋およびリストバンドの使用は認める。
7. 使用球は、全日本軟式野球連盟公認球「J号球」とし、金属バットは「J S B B」公認マーク入りのものに限る。但し、破損(変形)・加工バットの使用は禁止する。
8. バットの使用制限を次の通りとする。(全軟野連発第366-3号による)
 - ① 一般用バットで、打球部にウレタン・スポンジ等の素材の弾性体を取り付けたバットの使用は禁止とする。なお、一般用バットであっても前記以外の木製・金属製・カーボン製・複合(金属/カーボン)バットについては使用制限を行わない。
 - ② 少年用バットの使用制限は行わない。
ただし、2029年度より打球部にウレタン・スポンジ等の素材の弾性体を取り付けたバットの使用は禁止となるので注意のこと。
9. サングラスの使用は競技者必携の通りとする。

(抽選会・開会式)

1. 大会の出場チームは選手名簿を提出し、開催前に行われる監督会議・抽選会に指導者が出席すること。
2. 大会の開会式での選手宣誓は、組合せ抽選会での結果に基づき、出場する全チームの中から理事長(不在の場合は副理事長等)が、抽選番号クジを引いたチームの選手とする(基本的には主将)。
3. 大会開会式での各チームの集合時間は、開始時刻30分前までに受付を終了し、選手は指定された入場行進場所に整列していること。
4. 各チームの入場行進順は、先頭が前年度優勝チーム次に準優勝チーム、続いて抽選番号の若番からプラカードを持つ者が先頭で、背の低い順に並んで行進する。
5. 大会に出場する選手は、開会式に参加するものとし、特別な理由がない限りこれに違反し

た場合は、試合に出場することが出来ないものとする。

(試合の集合時間・準備)

1. 第1試合のチームは、試合開始予定時刻1時間前までに集合し、指導責任者により受付を終了すること。第2試合以降も同様とする。
2. 試合中止の場合は、大会本部から連絡する。雨天による判断が困難な場合は、時間までに試合会場に集合し、大会本部の決定に従うこと。
3. メンバー表の提出は、第1試合は試合開始時刻の30分前、第2試合以降は3回終了時を原則、監督・主将が5部持参し、グラウンドルールや注意事項等を確認すること。
ただし特別な理由がない限り、上記のメンバー表提出期限までにメンバー表の提出がなかった場合は、監督のベンチ入りは認めないものとする。
4. ベンチは、抽選番号の若番が1塁側、後番が3塁側とする。ただし、1チームが2試合続けて行う場合はベンチの入れ替えをしないことがある。
攻守の先攻・後攻はメンバー表提出時にトスにより決定する。
5. 試合前のシートノックは、後攻のチームから開始し、時間は5分間とする。ただし前の試合の遅れまたは天候不安定等が生じた場合は、短縮または中止して試合を開始する。
6. シートノック時及び試合開始後、ユニホーム着用指導者の投球練習の捕手（ブルペンを含む）とシートノックの選手からの返球の捕球を行うことは認める。捕手の場合は、マスク着用としマスク無しの場合は立って行うこと。
7. シートノックの補助員としてコーチ（背番号29・28）を認める。ダートサークルに入る補助員はヘルメットを着用すること。
8. シートノックを行うノッカーにボール渡しをする選手は、ヘルメットを着帽のうえ前方からのトス渡しとする。試合中の球審へのボール渡しをするボールボーイも必ずヘルメットを着帽すること。
9. ベンチ入りの代表・監督・コーチ等の指導者が試合中にベンチを離れた場合は、退場したものとみなし再びベンチに戻ることは出来ない。ただし緊急を要する場合に限り認めることとする。

(試合時間等)

1. 大会の試合形式はトーナメント戦とし、1試合1時間30分、6回均等回（低学年大会は1時間15分、5回均等回）で勝敗を争うこととするが、タイムゲームを最優先とする。
1時間30分（低学年大会は1時間15分）を超えた時は新しいイニングに入らずその時点の得点を持って勝敗を決する（同点の場合は特別延長戦ルールを適用する）。決勝戦も同様とする。
2. 得点差によるコールドゲームは、3回均等回終了後以降10点差以上、及び4回均等回終了後以降7点差以上の時に適用する。決勝戦も同様とする。
3. 日没・降雨・会場利用制限(*)によるコールドゲームの適用は、4回（低学年大会は3回）均等回終了後適用する（同点の場合は抽選とする）。4回（低学年大会は3回）均等回終了前については、原則として翌日の第1試合に先立って継続試合とする（決勝戦も同様）。
日没・降雨・会場利用制限(*)の判断は、当該球場責任者・責任審判員が両チームの監督を招集し協議して決定する。（*試合会場の利用時間切れ等の制限のことを言う）
4. 上記2・3項における「3回均等回終了、4回均等回終了」については、3回表又は4回表が終了した時点で後攻チームがリードの場合、3回又は4回均等回終了とみなしコールドゲームを適用する。

5. 1 試合のタイムの制限は下記の通りとする。

守備側の投手のところへ行く回数の制限は次の通り。

- ① 監督が行った時点で1回とする。但し、投手交代の場合は回数に含まない。
- ② 野手（捕手含む）が行った時点で1回とする。監督が行って選手を集めると監督回数1回、野手回数1回となる。
- ③ タイムは監督回数・野手回数共に1試合につき3回までとする。但し、低学年大会は1試合につき2回。
- ④ 延長戦は監督回数・野手回数共に1イニングにつき1回とする。
- ⑤ 攻撃側のタイム中に守備側は指示を与えることが出来るが、攻撃側のタイムより長引けば守備側も1回カウントされる。

攻撃側の回数制限は次の通りとする。

- ① 1試合につき3回までとする。但し、低学年大会は1試合につき2回。
- ② 延長戦は1イニングにつき1回とする。
- ③ 守備側のタイム中に攻撃側は指示を与えることが出来るが、守備側のタイムより長引けば攻撃側も1回カウントされる。

(試合)

1. 指名打者ルールを使用することが出来る。（詳細は競技者必携の通りとする）

2. 投手の投球制限は下記の通りとする。

① 高学年大会

球数制限とし、同一投手の投球数は1日70球、1週間210球（県大会通算）以内とする。

投手は5・6年生とする。特例として4年生以下も認めるが、出来る限り5・6年生を起用すること。（4年生以下の投手の投球数は1日60球、1週間180球（県大会通算）以内とする）。

※1日、1週間の球数制限に到達した場合、打者の打撃完了まで投球可能とする。

② 低学年大会

球数制限とし、同一投手の投球数は1日60球、1週間180球（県大会通算）以内とする。

※1日、1週間の球数制限に到達した場合、打者の打撃完了まで投球可能とする。

③ 女子大会

投球回数制限とし、同一投手の投球回数は1試合4イニング（特別延長戦も含めて12アウト）とする。

1日2試合の場合は、2試合目も同様とする。（1日の合計8イニング24アウト）。

投手は基本的には5・6年生を起用すること。（4年生以下の投手の投球回数は1試合3イニング9アウト、2試合目も同様3イニング9アウトとする）

④ 6年生選抜大会

投球回数制限とし、同一投手の投球回数は1試合3イニング（特別延長戦も含めて9アウト）とする。

1日2試合の場合は、2試合目も同様とする。（1日の合計6イニング18アウト）。

3. 投手の変化球は禁止し、変化球に対してはボールを宣告する。再度繰り返した場合は、その投手は交代させる。（その試合での再登板も認めない）

4. 同一試合での投手と捕手の兼任を禁止する。（2027年度より適用）

5. 控えの選手等が準備投球を捕球する際は、捕手に求められる用具をすべて着用していない限り、立って捕球すること。
6. 同三塁または一塁のベースコーチが走者に触れる、またはつかんだりして走者の帰塁あるいは離塁を助けたと審判員が認めた場合、走者に対するアシスト（肉体的援助）と見なし、当該走者をアウトとする。
7. 死球等により手当が必要とする場合には、臨時代走（コーティシーランナー）を認める。代走は打順前位の者とする（投手・捕手を除いても良い）。
8. 審判員に対するアペールは、監督と当該選手に限り認める。また選手交代を行うときは監督が球審に申告する。試合中のメガホンの使用は監督に限り認める。
9. 監督が投手と協議するときは、マウンドまで駆け足を励行すること。また選手への指示についても同様とする。尚、野球規則 5.10(2)は適用しない。（監督またはコーチが1イニングに同一投手のもとへ2度行っても自動的に投手交代とはならない）
10. アウトを取る意思のない投手の塁への牽制・送球は遅延行為と見なし審判員はボークを宣言する。
11. 仮設球場等の場合は、球場責任者が球審と両チームの責任者に対してローカル・ルールの適用を説明し試合を行う。
12. その回の先頭打者は、準備投球が終るまで次打者席で待機すること。
13. 次打者席では~~投手が投手板に触れて投球位置についたら、素振りをしてはならない。~~
14. 投手が投手板に触れて投球位置についたら、投手に動揺を誘うような大きな声を発しないこと。
15. ベンチ内の大人がいかなる状況であっても、選手を委縮させるような言動を禁止する。
16. 悪質な暴言・野次・抗議等を行うチームには、大会責任者・球場責任者・当該審判が当事者または代表・監督の退場を命じることが出来る。少年野球にふさわしい応援で望むこと。
17. メンバー表提出後、試合開始前の両チーム整列までの間にメンバー表に記載された先発出場選手が突発事故によりやむを得ず出場不可能となった場合、控え選手を交代出場させることができる。その場合、出場不能となった先発出場選手の打撃順を受け継ぐが、守備位置の変更は認める。また、出場不能となった選手は試合に出場しなかったことになり、回復すれば以後の試合に出場することができる。

(特別延長戦)

1. 6回終了後（低学年大会は5回終了後）または1時間30分（低学年大会は1時間15分）を超え、後攻の攻撃終了時で同点の場合は、特別規則を適用し、直ちに「特別延長戦」を実施すること。
2. 打者は継続打順で、無死走者1塁・2塁（走者は順次前打者）にて、投球制限を遵守の上、1イニング行い、点数の多いチームを勝者とする。
1回で勝者が決定しない場合は、勝敗が決するまで継続打順にて、投球制限を遵守の上、繰り返し行う（決勝戦も同様）。
3. 特別延長戦中の降雨・日没については全て抽選とする（決勝戦も同様）。
4. 抽選方法は、球場責任者・責任審判員の指示に従う。
5. 特別延長戦での選手の交代は認める。ただし既に交代した選手の交代は認めない。

(附 記)

1. 試合会場（フィールド外を含む）に於いて、試合前の練習等での選手のバットの使用は禁止する。ただしベンチ入り後の指導者によるバットを使った守備ノック（ベンチ前のみ可）と選手のベンチ前での素振り（指導者立会いのもと）は認める。
2. 試合前のメンバー交換後、次試合の両チームの先発バッテリーのブルペンでの投球練習を認める。
3. ベンチ入り10分後にシートノックを開始する（時間の短縮を目指すため）。
4. 各会場に於いては、ベンチ内への組立椅子・机等の持込・使用は禁止する。なお試合終了後はグラウンド整備の手伝いとベンチ内の清掃を行うこととする。

5. 以下の野球規則・競技者必携の改定については導入しない。

- ・投手の12秒、20秒ルール
- ・ハイブリッド姿勢によるワインドアップポジション

6. 全日本軟式野球連盟の変更通達のうち「試合中の選手アナウンスの敬称略」は導入しない。

- ・選手アナウンスは全て「さん」付けで行う。

(審判規定)

1. この規定以外の必要事項は、審判員が大会責任者（ここでは球場責任者）と協議して決定する。

※以上の大会特別規則は2026年4月4日付（2025.3.7 一部追加・削除）で改定